

学級集団指導論の展開

企画者 蘭 千壽（防衛大学校）・伊藤美奈子（お茶の水女子大学）
 司会者 蘭 千壽（防衛大学校）
 話題提供者 河村茂雄（岩手大学）・伊藤美奈子（お茶の水女子大学）
 松井 仁（新潟大学）・高橋知己（岩手県小屋瀬小学校）
 指定討論者 洲上克義（鹿児島大学）・秋田喜代美（立教大学）

<企画主旨>

「学級崩壊」現象が全国の小学校に広がっている。授業時間になっても教室に入ってこず、廊下で遊んでいる。授業中わけもなく立ち歩く。授業とは関係のないことを大声でし、数名がここに口論を始め、教師の注意を無視する。勝手なふるまいをする子どもたちで学級は騒然としている。この現象は数年前に首都圏の小学校高学年の学級で起こり、今日では地方都市の高、中学年の学級へと広がりをみせている。

本シンポジウムでは、このような「学級崩壊」現象の実態を把握するとともにそれらの原因の解明をおこないながら、「子ども一人ひとりが学級という集団経験をとおして成長する」ことを各自の諸論に依拠しながら学級集団指導論の展開を図ることを目的としている。いくつかの具体的な学級集団指導論を提供できればと考えている次第である。話題提供者はそれぞれのフィールドで優れた学級集団指導の実践研究をおこなっておられたり、スクール・カウンセラー業務に携わっておられる方々である。指定討論者の方々には、学級集団指導論の展開を学校・学級経営論の立場から、また教師の職能成長の立場から問題点の指摘をお願いしたい。当日は、フロアの方々とともに議論し考えを深めていきたいと考えている。

<学級崩壊と教師の学級指導行動>

河村茂雄（岩手大学）

学級崩壊は授業の不成立などで、生徒の学習が低下するだけでなく、規範を失った集団での生活が生徒の心の発達にも影響を与えかねない。

学級崩壊の背景には、家庭や地域社会のあり方、学級制度の問題など数多くの要因の指摘がある。そして「子どもが変わった」ということが強調され、その結果学級崩壊が起こるという展開である。だが、現在進行形で直接生徒に対応している教師は、それらの要因の変容を待ってられない。

「変わった子ども」の実体を理解し、それに応じた学級経営を展開するしかないのである。それは生徒の人間関係の形成を促進するような学級経営でもある。人間性の育成には集団体験をとおし

た体験学習が重要であり、家庭や地域社会でそれが少なくなった現在、学級集団をとおしてその体験を補う必要がある。それには日々の学級での諸々の生活経験がそのまま生徒にとって体験学習となるのが、理想である。授業や特別活動、行事などの取り組みの背景に生徒の人間性を育成するという目的が明確に意識され、諸活動が密接に結びつき、結合的に生徒の日々の体験学習を深める。そのプロセスをとおして生徒の人間性・心を育成するのである。

集団は個人を育てる。つまり、教師の援助も学級集団という環境側からなされる援助の1つであり、体験学習の意義に沿った指導や援助のあり方が重要である。のべ、教師400名と生徒800名に実施した筆者の調査でも、生徒の学級生活への意欲がとても高い学級と、意欲が著しく低下し、学級崩壊に至っている学級が見いだされ、そこに教師の指導行動のタイプに差があることが示唆された。教師は学級経営を従来の経験や勘のみに頼ることなく、生徒の内面を理解する工夫をし、集団形成における理論と方法を参考にした対応が求められる。それが学級崩壊を予防するだけでなく、心の教育の1つの具現化であると思う。当日は筆者の調査結果をもとに教師の指導行動のタイプ別に学級集団の状態と生徒個々の意欲について話題を提供したい。

<教師の資質として求められる集団作り

とカウンセリング・マインド>

伊藤美奈子（お茶の水女子大学）

近年、子どもの心の問題が複雑化し、授業妨害や学級崩壊といわれるようなキレル子どもたちへの対応に苦慮する教師が増えている。非社会的問題と反社会的問題の境界がなくなり、その対処方法をマニュアル的に当てはめることも難しくなっているというのが現状である。

そういう現状を受けて、教育センターなどでは、教育相談研修やカウンセリング研修に参加を希望する教師は年々増加の一途にある。しかし現状では、学校現場で教師がカウンセラー役を兼ねるのはそんなに安易なことではない。その背景にある